



Title	ドイツ ボーフム・ルール大学外国語教育研究所日本語学科での活動
Author(s)	阿竹, 仁以奈
Citation	日本語講座年報. 2026, 2024-2025, p. 4-7
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/104424">https://doi.org/10.18910/104424</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



2024年度に博士前期課程を修了した阿竹仁以奈と申します。現在、ドイツのボーフム・ルール大学外国語教育研究所(以下、LSI)日本語学科(以下、ヤポニクム)で客員講師として勤務しております。ここでは、LSIでの日本語コースの様子と私の活動を紹介できたらと思います。

### 勤務先について

私が勤務しているLSIは、ボーフム・ルール大学附属の、主に成人を対象とした語学学習機関です。日本語の他に、ロシア語、アラビア語、中国語、韓国語など、様々な言語のコースが提供されています。(なお、2026年1月にLSIとボーフム・ルール大学の学生向けの語学学習機関であるZFAが統合しました。統合に伴い、教室やオフィスが移転し、授業や業務に変更が生じました。ここでは、組織統合前の2026年1月までの様子を中心に報告します。)

日本学科(ヤポニクム)は、日本語初級、中級者向けの2週間の集中コース、10週間のオンラインコースを定期的に提供しています。また上級者向けのコースや中高生向けのコース、日本の大学生と交流しながら言語や文化を学ぶコースなど多種多様なコースを行っています。これらのコースの学習者は、日本に興味がある高校生、日本の大学に留学する予定の大学生、仕事で日本へ赴任する方、日本に旅行に行きたい定年退職後の方など、日本語学習の動機や目的、年齢層が様々です。講師は2026年1月現在、ドイツ語母語話者の講師が2人、日本語母語話者の講師が3人おり、一つのコースを全員で分担して担当しています。



以前のLSI(左)

教室のある建物(2026年1月より)(右上)

オフィス(2026年1月より)(右下)

### 2週間の集中コース

ここでは、ヤポニクムの目玉である、日本語初級・中級者向けの2週間の集中コースについて紹介します。コースのレベルは4つに分かれており、「日本語1・2」が初級、「日本語3・4」が中級のコースです。どのコースも、主に日本語を用いたコミュニケーション能力を身につけることを重視しています。教科書はヤポニクム独自のものを用いていますが、学習者のニーズやレベルに合わせて柔軟に活動や練習に変更を加えています。

このコースでは、学習者の多くが教室と一体となったゲストハウスに泊まり込み、他の学習者と共に朝8時半から夕方の17時頃まで日本語を学びます。1クラスの人数は、最大12人とこじんまりとしており、教師と学習者の距離が近く、密な関わりができます。また近年は、ハイブリッドのコースも開講し、対面での参加が困難な学習者がオンラインでコースに参加できるようにもなりました。ここからは、実際にどのようなコースを行っているかについて、初級の「日本語1」を例に紹介します。

## 「日本語1」のコース

「日本語1」は、日本語を初めて学ぶ学習者のためのコースです。ただし、コース中はひらがなを用いるため、コースが始まるまでにひらがなが読めることをコース参加の条件としています。ひらがなの学習には、イメージを用いてひらがなを覚えることができる、ヤポニクム独自のオンライン教材を提供しています。

「日本語1」の主な目的は、以下の2点です。

- ・簡単な日本語を使ってコミュニケーションができること
- ・「です・ます」形で基本助詞を使った簡単な文章が作れること

2週間のコースの1日の基本的な流れを紹介します。

午前中は、教科書の内容や新しい文法の導入を行っています。教科書のテキストにはその日に学ぶ文法事項や語彙が散りばめられています。学習者はまずそのテキストを聞いて内容を推測しながら理解してからテキストで用いられていた文法や語彙の学習を行います。

午後は、まず様々な道具を用いた全身反応教授法(Total Physical Response, TPR)を行います。これは、翌日以降に学ぶ文法事項や語彙を聞き、意味を推測しながら、パントマイムをしたり道具を選んだりする活動です。初めて聞く言葉に戸惑う参加者も少なくありませんが、トライ&エラーを繰り返す中で学んでいけばいいことを強調して参加者が安心してTPRに取り組める雰囲気心がけています。このTPRの中で物の名前や形容詞などを自然に覚えられたという学習者も多いです。その後はシチュエーション練習を行います。「日本語1」では、「自己紹介をする」、「場所を尋ねる」、「買い物をする」、「レストランで注文する」などといった日常場面での会話の練習を行います。

シチュエーション練習でアウトプット活動を行った後は、漢字と文法解説を行います。漢字は前述のひらがなと同様にヤポニクム独自の教材を用いた解説を、文法解説ではそれまでに練習した文法の整理をドイツ語母語話者の教師が行うことが多く、学習者は母語で解説を受けることができます。その後は、その日に新たに学んだ文法の練習や文法を用いたタスク練習を行います。例えば、「うちからヤポニクムまでの行き方を簡単な日本語で説明する」といったタスクがあります。

そして1日の最後には、リラクスの時間で終わります。クラシック音楽などをかけ、学習者はリラックスした状態で、教師が語りかける日本語とドイツ語のストーリーを聞きます。朝から晩まで日本語漬けの1日を送った学習者が1日の疲れを癒しながら、日本語を受容する時間です。

授業で扱った文法等に関する質問や、日本語学習全般、日本の文化や社会等に関する質問などを受け付ける質問タイムを行う日もあります。AIを使った日本語学習に関する質問をよく受けます。また書道や日本料理、合気道などの日本文化体験の授業も提供しています。私は2025年度には、巻き寿司を学習者と作りました。

学習者からは、コースについて「久しぶりの『勉強合宿』のようなコースで、学ぶことがたくさんあり大変だったが、他の学習者や教師との距離が近く、『みんなでがんばろう』という雰囲気があってよかった」といったフィードバックをもらうことが多いです。



「日本語1」の授業の様子。写真の右に写っている機材を用い、参加者が対面、オンラインどちらの様式でも参加できる、ハイブリッド形式の授業を提供しています。

### ヤポニクムでの1年間

ドイツに来てもうすぐ1年が経ちます。私の住んでいるボーフムは、こぢんまりとしていますが生活には困らず、自然が豊かで、多様な背景を持つ人たちが多く、過ごしやすい町だと思います。ドイツで生活していると、日本との違いに驚くこともありますが、その背後にある考えを知るの面白いですし、これまで当然だと思って疑ってこなかったことへの気づきがあることもあります。

授業に関しては、少しずつ慣れてきたとはいえ、なかなかうまくいかないことも多く、勉強不足を痛感しています。ですが、こうした時に周りの先生たちに相談すると、それぞれの視点から「こうすればいいのではないか」といった意見交換を活発に行えるのはヤポニクムの教師陣の特徴だと思います。現在、ヤポニクム独自の教科書の改訂のための会議を行っていますが、そこでも様々な視点、視座からの意見が飛び交っています。これまで私が授業時に教科書を使っている時には全く気にしていなかった点を指摘する先生もいて、多くの学びを得ています。

またこの1年間、様々な学習者の方々と関わることができました。ヤポニクムのコースを受ける皆さんは、とても積極的で、学習者同士で教え合うなど、自分たちで学びを作っていくことができる人たちが多く、彼らの学びに対する姿勢にはいつも刺激を受けています。また、LSIは宿泊施設と教室、オフィスが一体になっている施設で、私が学習者と同じ宿泊施設で生活していたことも相まって、学習者と授業以外の時間でも交流することができました。コースが終わった今でも交流が続いている参加者もいて、彼らとの出会いに感謝しています。

前述した通り、2026年1月の組織統合に伴い、教室とオフィスが移転しました。環境は変わりましたが、これからも学習者のニーズに合った授業を提供し、新たな挑戦をしていきたいと考えています。また仕事外の活動として、2025年の終わりから日本語補習校でボランティアを始めました。また複言語・複文化の考え方に基づき、ドイツの継承語教育に長年携わっている「チーム・もっとなぐ」の活動にも参加しています。どちらの活動でも、子どもたち、保護者、先生方、チームの皆さんと協力しながら、子どもたちの成長に少しでも貢献できたらと思っています。



毎年デュッセルドルフで行われる「日本デー」での出張授業の様子。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました！

#### 【関連Webサイト】

LSI(ボーフム・ルール大学外国語教育研究所)

本稿で紹介した日本語コースの詳細や他言語のコースの情報が掲載されています。

<https://www.lsi-bochum.de>

チーム・もっとなぐ

ドイツにおける継承語教育の活動内容、複言語・複文化の考え方に関わる読み物などが掲載されています。

<https://tsunagu.jp/g.jp>